



大阪の暑さ対策の歴史

夏は暑い。とはいえ、年々温暖化の影響なのか、はたまた都市熱によるものなのかは定かではありませんが、梅田の中心部の気温は半世紀前に比べますと、少なくとも平均で三度近く上昇しており、特に夏場における熱帯夜の日数は倍近くになっています。いわゆる熱帯地方の国では、夏場であっても夜になれば涼しくなるものが、大阪ではまったく涼しくならない事から、大阪は世界で一番寝苦しい都市といわれる事もあるようです。

そんな暑い大阪ですから、古代から夏の暑さ対策については様々な努力がなされてきました。

古いものでは、『日本書紀』仁徳天皇六二年に、關鷄(つげ・奈良県天理市福住町)の氷室から仁徳天皇に氷が献上されたという記録が残っています。仁徳天皇の皇居は難波高津宮であった事から、奈良から大阪まで氷が運ばれていた事が分かり、さらにこの氷室には考古学上の裏付けもあり、昭和六三年に発掘調査が行われた、長屋王宅跡の木簡には「都祁氷室(つげのひむろ)」と書かれている事から、少なくとも古代の奈良には氷室があり、活用されていた事が確認出来ます。

また奈良時代、難波宮を皇居とされていた孝徳天皇の御代には氷連(ひのむらじ)という姓が登場し、大阪の朝廷のために氷室を管理した職が存在したとみられています。古代の人でも大阪の暑さはたまたらず、専門職を設けるほどだったようです。

時代は下がって、大正時代頃から氷で野菜などを冷やす木製の冷蔵箱が登場し、特に大阪では購入熱が強く、昭和初期の阪急百貨店でも数多くの冷蔵箱が販売されていたようです。昭和九年には、大阪金属工業株式が、ミフジレターと呼ばれる国産初の冷凍機を發明し、さらにその流れで、昭和十一年に南海鉄道の一〇〇一形電車に日本初の冷房を搭載、その涼しさを求めて人が集まり余計に暑かったという逸話も残っています。この大阪金属工業株式が、現在、世界有数のエアコンメーカーで、当宮氏子さんでもあるダイキン工業株式です。

古代より、大阪の暑さはたまらないものでありましたが、先人の培ってきた努力の恩恵でいま私たちは涼しい空調の下過ごす事が出来ます。しかし、長梅雨だった分、今月の暑さはこたえます。油断せず、外出時には暑さ対策を致しましょう。

八月の社務所の受付について

新型コロナウイルスの第二波による感染者数の増大を受け、今後、政府や大阪府、大阪市より緊急事態宣言、または外出自粛要請等が発出された場合、当宮では感染拡大防止の観点から、社務所の受付を制限、または休止する場合がございます。また当宮近隣で感染者が認められた場合も、これに準じて、防疫措置として社務所を休止する場合がございます。事態の早期終息に向けての事でございますので、何卒ご理解ご協力の程、お願い申し上げます。

なお、ご参拝につきましては、手水の柄杓、鈴緒は撤去しておりますが、通常通りにお参り頂けます。

今月の暦

【節気】 立秋(七日)：暦の上では秋となる。この日から残暑処置(廿三日)：暑さの峠を過ぎる頃。台風特異日

【雑節】 お盆(十三〜十六日)：先祖供養。日本独特のもの

【大安】 八月五日、十一日、十七日、廿三日、廿九日

【祝日】 山の日子(十日)

【忌日】 広島原爆忌(六日)、長崎原爆忌(九日)、終戦の日(十五日)

【朔望】 満月(四日)、下弦(十二日)、朔月(十九日)、上弦(廿六日)

【旬】 【野 菜】 シシトウ、ナス、トウモロコシ、冬瓜、南瓜

【果 物】 アドゥ、イチジク、スイカ、メロンなど
 【魚介類】 ハモ、アユ、スルメイカ、キハダマグロ、アワビ
 【その他】 青葉狩り(登山)、海水浴、ひまわり、朝顔が見頃

雑感

先月は大変な大雨で、九州を中心に各地で多くの被害が出ました。被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。二年前にも西日本では大変な豪雨に見舞われ、当宮七夕祭も宵宮は中止せざるを得ませんでした。昔であれば数十年に一度の災害が立て続けに発生している状況です。これからの時代、コロナ禍も含めて、様々な災害への備えを、個々人でも講じて行かなければいけない時代です。そんな時代だからこそ

○やりたい事はあきらめずに
 ○するべき事はあせらずに
 ○やれる事はくらくらせずに

災害はどうしてもやってくるものです。人間のチカラは小さなものという事を思い知らされます。だからこそ、人と人との支えを大事に、一つ一つを積み重ねていきましょう。

網敷天神社 SNS、地図サイト



編著 網敷天神社

白江 秀 知

